

以上見てきたように、東洋史学の成立あるいは日中知識人の交流をそれぞれ分析した研究は存在するが、上海東文学社を手がかりに、当時日中知識人の知的交流を関連付けさせつつ近代日本の東洋史学の構築に着目する研究はほとんど存在しない。見方を変えればここに未開拓の領域がまだ残されているということでもある。

研究方法

基本的には資料の分析と史料の調査を研究方法の両輪にして研究計画を展開している。先行研究と比較して、助成者の研究方法は日本あるいは中国のどちらか一方の資料に頼るのではなく、清末民初の思想・人的交流、とりわけ上海東文学社をめぐる日中知識人の知的交流に注目し、双方の史料を活用したうえで分析を行う点に特色がある。新しい視角の発掘とともに、新しい史料の蒐集にも取り組み、構想力と実証をあわせもつ研究を行っている。具体的に次のような方法で研究計画を遂行している。

1. 史料分析

関連人物の既出の全集の関連部分をひとつお読み読んだうえで、その文章が載ったものとの新聞や雑誌類の誌上でそれらを見、そしてその雑誌や他の雑誌の同じ号などに、どんな人のどんな議論が載っているかを検討する。点と線だけでなく、面で思想家および時代的雰囲気を理解するよう努めた。また、知識人たちの発言を文字どおりに受け入れるだけでなく、彼らの人的関係についても検討を加えることを心がけていた。例えば、王国維の学術生涯における内外の影響を論じる場合、藤田豊八・田岡嶺雲との関係に関しては、わずかな事実記述しか見あたらず、学術上の実質的な関わりについては、まったく検討されていない。しかし、青年期に書いた『静庵文集』および『続編』、すなわち『教育世界』雑誌に発表された三十五歳までの王国維の論文の多くは明治期日本の学術成果と深い関係を持つことからして、この二人とのかわりを近代日中学術交流の視点から改めて考察を試みた。

2. 史料調査

主に中国近現代史に関する資料を大量に有する中国国家図書館（北京）、上海档案馆、天津市図書館、雑誌のバックナンバーをよく揃える国立国会図書館、明治時代以降の雑誌を豊富に所蔵する東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫、早稲田大学中央図書館 B1 明治期図書コーナー、清末以来の日中文化交流に関する豊富な資料を有する東

京都立中央図書館実藤恵秀文庫などを活用しながら史料の収集を行った。

そして、すでに公刊された全集のほか、未公開の書簡や生前の蔵書を含め、内藤湖南の関連資料の大半は、関西大学図書館内藤文庫に所蔵されており、一部は故郷の秋田県鹿角市先人顕彰館および生前勤務していた京都大学に保存されているため、秋田・大阪・京都へ行って史料調査を行った。そのほか、例えば、田岡嶺雲に関しては、鈴木一正「田岡嶺雲参考文献目録」（『国文学研究資料館紀要・文学研究篇』31、32、2005年、2006年）を手がかりに、芋づる式で資料の所在を判明した。

3. その他

学会報告および雑誌論文（日本語・中国語）の掲載などによって、関連分野の内外の研究者と交流しつつ、自身の研究の進展に役立て視野を広げることができ、専門的知識の強化と研究精度の向上を図り、今後の研究のための有益な基礎を築くことができた。たとえば、関西大学文化交渉学教育研究拠点（ICIS）第4回次世代国際学術フォーラムに参加し、研究報告を行い、論文「田岡嶺雲とその時代——ある明治の青春」（『近代世界の「言説」と「意象」——越境的文化交渉学の視点から——』2012年2月、87～109頁）を発表した。この課題についてはさらに掘り下げて研究を行う必要があるため、今後も続けていきたいと思う一方で、今回の研究課題で得た成果を博士論文の加筆・修正に生かし、なるべく単著という形で公刊したい。

研究の意義と展望

先行研究の業績を踏まえつつ、日中両国の多くの識者の注意をひきつけたにもかかわらずこれまで体系的に検討されてきたとはいえない上海東文学社をめぐる日中知識人の交遊の実態について考察することは、百年前の日中学術交流の一面を描き出すことができ、東洋思想史の分野で新たな知見を提示できる。言論の具体的分析を通じて中国史研究あるいは日本史研究だけでは得られていない知見を獲得しうると信じる。これらの試みが成功すれば従来の近代日中交渉史・比較交流史に更なる厚みを増しうるとのみならず、今日においても議論の焦点となり続けている近代日本と「東洋史学」の意味と問題、光と影を考慮する際に新しい重要な示唆を与えうると考えられる。

謝 辞

この度、公益財団法人三島海雲記念財団の平成 23 年度学術研究奨励金（人文科学部門）のご支援をいただき、研究を順調に進めることができたことを、心より厚く御礼申し上げます。今後も一層精進を積み、優れた研究成果を出したいと念じております。どうぞ、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。